

表2 昭和60年度 一木宮農集団組合 稲作経費

(単位:円)

作業名	費目	10a当り経費	59年10a当り
耕耘・代掻 10a当り 作業時間 60年 2.40 59年 3.76 58年 1.15	オペレーター	992	1,056
	一般労務費	101	205
	燃料費	658	676
	修理費	432	481
	償却費	1,313	1,305
	機械借上費	1,661	1,649
	諸費	191	282
	小計	5,348	5,654
田植 60年 2.10 59年 1.39 58年 3.57	苗代(稚苗)	8,971	8,999
	オペレーター	1,187	1,313
	一般労務費	2,188	1,741
	燃料費	207	237
	修理費	187	136
	償却費	1,942	1,931
	諸費	892	805
	小計	15,574	15,161
防除 60年 0.40 59年 0.40 58年 1.09	労務費	925	619
	機械利用料	300	200
	燃料費	12	11
	諸費	308	573
	小計	1,545	1,403
資材	肥料費	4,494	7,158
	除草剤費	3,387	2,010
	農薬費	5,666	3,886
	小計	13,547	13,754
収穫	オペレーター	2,102	1,911
	一般労務費	1,004	1,030
	修理費	165	2,270
	燃料費	622	668
	償却費	4,143	4,120
	積立金	1,327	3,202
	車借上料	876	683
	諸費	261	375
その他	水利費	650	580
	乾燥調製料	1,469	2,809
60年	7.84	61,861	78,820
59年	8.17		
58年	8.19		

自己完結型の農業を取り入れ  
ていると言えます。

先進地の広島県庄原市  
の一木宮農組合の視察  
から

ご承知のように本町は水田  
の基盤整備を完了し、土地利  
用の効率化を図る地域農業集  
団である農区制度も確立して  
おります。

また農業機械銀行、農業機  
械化集団、機械利用組合等と  
整備して農作業の受委託等を  
すすめるなど農業の生産性の

向上を目ざしています。

しかし、農業機械の効率利  
用が大きな課題として残り、  
来年度の転作面積の拡大(一  
説では約三〇%といわれてい  
る)、輸入農作物の輸入緩和  
とそれに伴う競合等を考えま  
すとの課題を積極的に改善  
していかなければなりません。

そこで農区のリリーダーの方々  
を中心に標記の一木宮農集落  
の視察をいたしました。結論  
的に説明しますと、ここでは  
作業委託費(堆肥撤布、水廻  
り、あぜ草刈り)を除いて育苗  
から乾燥調整まで総て組合で

実施する)が一〇アール当り  
約六万円での販売金額が約  
一七万(収量が一〇アール、  
五四〇キロ)で一〇万は委託  
農家の懐に入ることになりま  
す。本町では同じ作業で生産  
費を計算しますと約一十万円  
はかかります。何故こんな差  
が出ているのでしょうか。

この集落は五二戸、水田面  
積三二・六ヘクタール、水稻  
作付面積は二五・六ヘクタ  
ールで全員が参加しております。  
ここでは営農組織が大型機械  
を保有し、個人所有の農業機  
械は全くありません。もちろ

ん水田の基盤整備も殆ど完了  
し、その上に立つ機械化一貫  
作業体系を確立しております。  
ちなみに表2にありますよ  
うに昭和六〇年度の一木宮農  
集団組合の稲作経費の実態を  
示したものです。

現在、農区と農業機械銀行、  
機械化集団、機械利用組合等  
を結び付け農業機械の効率的  
利用を推進しております。今  
後の農業生産の向上はこのあ  
たりにあると思います。ご一  
考ください。

普通型コンバインによる稲刈りの状況  
(一木宮農集団組合の視察から)

